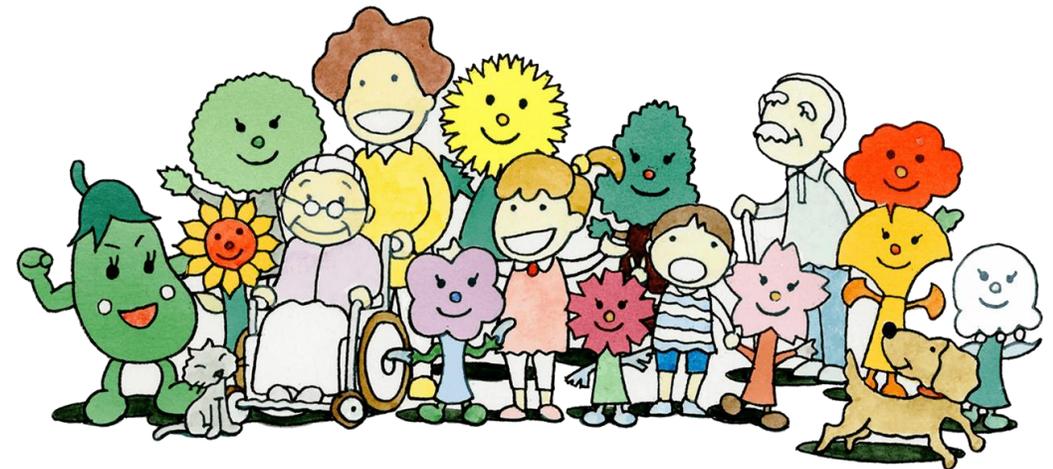


コロナ禍における介護の オンライン利活用

鈴鹿グリーンホーム 取組報告会・地域報告会
令和2年11月3日

特養係 ユニットリーダー 村田 菜朋子
特養係 ユニットリーダー 辻 万里奈



私たちは、地域に信頼されるべき存在であり続けます

1. 介護におけるテクノロジーの利活用

介護・福祉という業界において、先進的な取り組み、ロボットやICT（情報通信技術）などのテクノロジーの利活用が国より提唱されています。

コロナ禍によりよりオンライン化や環境の変化が進んだ

在宅ワーク、リモートワーク等のオンライン環境が進んだ

コロナ禍の影響で仕事のスタイルが10年進んだと言われている

当ホームでは、現状況下、国の方針を踏まえ、テクノロジーの利活用を進めています。

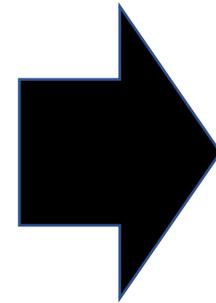


2. テクノロジー利活用の目的

コロナ禍において今までの「普通」が出来ない、方法を変える必要性が出てきた。



代替手段及び今まで以上の効率化・便利さの追求に「**オンライン化**」が必須となった。



会議

研修

面会

採用活動

記録

これらのオンライン化を通じて、入居者及び利用者・そのご家族様、ひいては地域の皆様により信頼していただけるサービスを提供する。

3. 外部記録

モバイルWi-Fiルーターを使用し、どこでも記録の入力や閲覧が可能にし、面談時などの業務効率化を図る。

【今まで】
訪問し話を伺いながら用紙に手書きをし
ホームに戻ってから
PCに入力

二度手間となっていた

【Wi-Fiルーター使用】
訪問先でのその場での入力(約
50%入力が可能)入力した情報を
ホーム内のスタッフがすぐ確認
でき加筆、追加更新できスピー
ディーな事務処理が可能。

4. 会議

集まる事が難しくなり、コロナ禍当初は外部での会議などは軒並み中止になっていた。



オンライン化により会議の開催・参加が可能になった。

Skype、LINE、LifeSize、Zoom、Googlemeet等使用

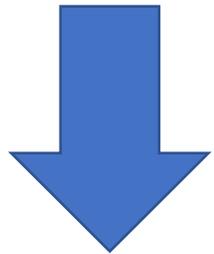
**24回のオンライン会議参加
(令和2年4月1日～9月30日)**

WEB会議中とわかるようにする工夫などしております。



5. 研修

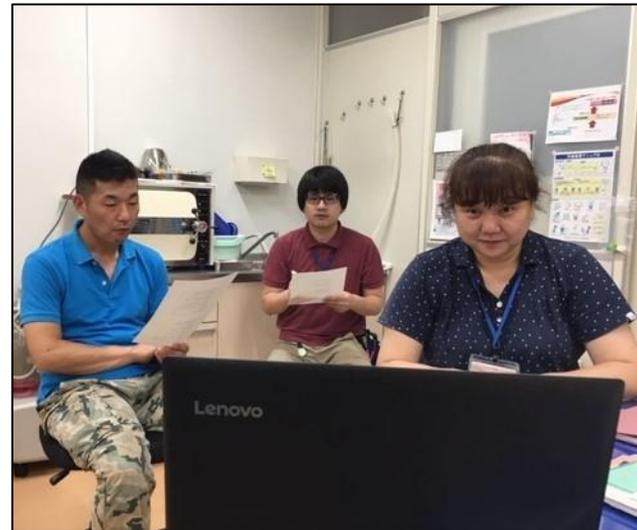
コロナ禍により外部研修の
受講機会が減少



ウェビナー開催
(ウェブ+セミナーの造語)

20回のWEB研修参加
(令和2年4月1日～9月30日)

研修への参加が以前よりも
参加しやすくなった



6. WEB会議・WEB研修のメリット

WEBで会議や研修に参加できるようになり、大きなメリットが見えるようになった。

WEB会議(計24回)

WEB研修(計20回)

1回あたり移動時間等が2時間超の節約になり、計44回で88時間以上の時間節約に繋がった

ホーム内での参加が可能な事で、少し席を外して緊急の対応をするなどの数字以外での効率化も認められた。

WEB研修を受講した全員が、従来の研修とWEB研修を比較して
今後もWEB研修を受講したいと100%の返答があった。

～オンラインアプリ使用による研修・会議・面会（面談）のメリットと留意点～

■ Webでの研修（ウェビナー）受講

（メリット）

- 現在の状況の中でも知識や質の向上を進められる
- 移動による時間の節約と身体的負担が軽減される（働き方改革につながる）
- 研修に参加しやすくなる
- 自分が慣れた場所からリラックスして気軽に受講できる
- 感染症の罹患や交通事故等事故リスクの減少
- 慣れれば事務のデュアルタスク進行が可能
- 安価に受講できるものが多いので経費の節約につながる
 - 使用するデバイスにメールで案内や資料、リマインダーが届くのでスケジュール管理がしやすい



社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

(留意点)

- 日常の業務ときちんと区別するため、受講のための時間と場所の確保に配慮
- 研修前後の参加者との意見交換等ができない（別に機会が必要）
- グループワーク等を伴う研修会については知識、技術が必要（ファシリテーター、別の対応アプリの重複使用等）
- 研修時間終了後は講師への質問ができない（メールでの事前質問が必要）
- 資料はデジタルデータで送られてくるため、デバイスが1つしかない場合は印刷が必要



社会福祉法人 鈴鹿福社会
鈴鹿グリーンホーム

■ オンラインアプリによる会議、面会、面談等

(メリット)

- 感染症流行期の家族等の面会や面談が可能（感染症防止）
- オンラインによる面接や就職ガイダンスなどにおいても活用できる
- 移動による時間の節約と身体的負担が軽減される（働き方改革につながる）
- 今後、医療等の外部との連携や新たなネットワークの構築に有効となる可能性も
- 事業所見学・視察などにも使用可能

(留意点)

- 場の雰囲気や相手の気持ちを察しにくい
- 使用するアプリの一致（相手が使い慣れているものに合わせる）
- ファシリテーターを担う方がいた方がよい



社会福祉法人 鈴鹿福社会
鈴鹿グリーンホーム

7. 面会

タブレットを使い、コロナ禍で出来なかった事が可能になりました。

39件のオンライン面会を
実施していただきました。

(令和2年4月1日～10月15日)



家族様が来所して、窓越しで面会される際に音声伝達ツールとして使用するなどの使い方もできます。

8. 採用活動

オンラインでの施設見学・採用面接を各2回実施いたしました。

そこから1名の職員採用に至っております。

タブレットを使用してLINEのビデオ通話やZoomで実施いたしました。



施設見学をオンラインで受けた方も、「施設の様子や設備などもよくわかり、移動時間等もかからないので非常に良かった」と感想をいただきました。

9. 考察

オンラインの利活用により、作業効率の向上や移動時間の短縮等が見える結果となった。

モバイルWi-Fiルーター

- 訪問先での同時入力で、二度手間がなくなり50%の入力が可能になるなど、作業効率が向上した。

WEB会議・WEB研修

- 移動時間などの短縮、交通費や受講費用の節約、ホームで受けられることによる対応やデュアルタスクの処理など大きなメリットがあった。

オンライン面会・施設見学・面接

- コロナ禍で出来なくなっていた、お断りをせざるを得ないことが出来るようになり、入居者やご家族様の利便性向上に繋がった。

10. 残された課題



新通信規格の5Gへの対応

今後普及していくであろう5Gなどにより、より高速化、大容量化、遅延なしの状況が進み、その対応が必須で、より多くの業務でのオンライン化を進めていく事が予想される

個々の取り組みとして

- モバイルWi-Fiルーター・・・外部記録以外での新たな使用方法の確立による活用頻度の増加
- WEB会議・WEB研修・・・時間短縮、効率化できたものの、そうして作られた時間を入居者様の支援や学びの機会、働き方改革等に活かしていく仕組みづくり

介護現場がより使いやすく、便利なツールの開発が望まれる。

ご視聴ありがとうございました

私たちは、地域に信頼されるべき存在であり続けます

